

### 第3回大量導入研究会（議事概要）

#### 1. 再エネの導入状況とコスト競争力

価格を引き下げするために、競争の仕組みを導入する際は、産業が成熟していることが重要。【長山】

FITが無くなったポルトガルでも、浮体式風力だけはFITが残っている。【長山】

揚水はロスが3～4割と大きいので、その需要は減っている。メリットオーダーで行くと1番高コストな電源となり使いきれない。【岡本】

コストが高いまま再エネが大量に入ると問題であるため、再エネのコストと量を比較し検討する必要がある。その解決手段の1つがインテグレーションスタディ。【岡本】

#### 2-1. 自立化に向けた政策の在り方について

VPPを始めとし、アンシラリーサービスがどのようになるのかという見通しも大事。【岡本】。

2019年からFITを卒業した電気が売られる際、環境価値は大変重要になってくる。【増川オブ】

風力はスケールメリット重視の大規模化が進む一方で、太陽光はモジュール化が進んでいる。今はインバーターも小型化・分散化が進んでいる。大規模化と分散化の状況を踏まえたネットワークの議論が重要。【岡本】

#### 2-2. 立地制約のある電源について

洋上風力については、デンマークで行われているような、セントラルオークション方式が有効。【松本】

大規模で長期的かつ明確な導入計画が必要であり、民間の投資を促す上で大変重要。【高村】

国が戦略的な公共投資をするということが大切。ポテンシャルのある地域においては、系統だけでなく、特に地元等利害関係やアセスメントの調整は大事。【高村】

制度の違いによって、日本に新しい技術が入ってきてないという事実があれば、それは危機的。【圓尾】

#### 3-1. 既存系等の最大限の活用

コネクト&マネージ等を始めとし足下の既存系統運用を変えることも重要だが、中長期的な視点からみると、非連続の高い目標を設定してみて、そこまで導入すると、どのような課題があるのかといった視点も必要。【岡本】

コネクト&マネージだが、東北電力では一種のコネクト&マネージの概念を相当入れている。既存電源までコネクト&マネージにまき直すかどうかということが課題。【佐藤オブ】

コネクト&マネージだが、太陽光業界としてはすぐにはお願いしたい。【増川オブ】

### 3-2. 出力制御の最小化と公平性・予見可能性確保

ファイナンスの上で、系統情報の開示は重要。【高村】

出力制御に関して、インセンティブ付けで行うのか、義務化で行うのか議論が必要。【荻本】

### 3-4. 適切な調整力の確保

調整力として揚水が風力や太陽光のフレキシビリティをどうするのかということに働きかけるという仕組み作りがないと十分にいかされない。【岡本】

連系線ルールも今見直され、FITで買い取られたものも市場に今後でてくる。電気の価格が下がり過ぎているときに揚水の調整力は使われるのではないか。【岡本】

再エネの導入には、調整力の調達が必要である一方で、再エネが入れば入るほど、調整力自身の稼働率は低下する。調整力をどのようにどれくらい確保するかといった観点は重要。【岡本】

蓄電池の普及のためにも、リアルタイム市場を作り、早い応答の価値を評価することがいいのではないか。【長山】

問い合わせ先

資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課